

犬は雑食性。何でも食べるからこそ注意！

勝手に食べものを与えないで！

愛犬の食事は飼い主さんが管理しています。犬が喜ぶから、かわいいからといって、勝手に食べものを与えることはタブー。なかにはアレルギーをもっているコもいるし、食事制限をしているコもいます。何気なく食べさせたものが原因で、下痢や健康トラブルを引き起こすことも。自分の健康より、愛犬の健康に気遣っているという飼い主さんも多くいらっしゃいます。食べものを与えるときは、必ず飼い主さんの了承を得てからあげるようにしましょう。

猫は肉食、犬は雑食性。甘いもの好き？！

犬はもともとは猫と同じように肉食動物ですが、人間と暮らしていくうち徐々に雑食性へと変化していきました。比較的何でも食べ、人間と同じようにけっこう甘いもの好き。つつい食べ過ぎて、ダイエットが必要なメタボ犬が増えてきているのは人間と同じです。ただし、味の感じ方は、人間ほど敏感ではありません。人間の舌には味を感じる「味蕾（みらい）」が6,000~9,000個近くあるのに対し、犬は2,000個弱、猫は1,000個以下。犬は人間ほどグルメとはいえないけど、猫より味が分かる舌をもっているといえそうです。また、人間は五感で食事を楽しみますが、犬は匂い>食感>味>見た目の順で食事を吟味しているといわれています。

5大栄養素をバランスよく。新鮮な水も大切

愛犬の健康のためには、栄養素をバランスよく体内に取り入れる食生活を送ることが大切です。健康を維持するために必要な栄養素は、身体の土台をつくりエネルギー源となる「タンパク質」「脂肪」「炭水化物」の3大栄養素と、身体の機能を調整する「ビタミン」「ミネラル」を加えた5大栄養素。もともと肉食だった犬は、人間より高タンパク、高脂肪の食事を必要としています。水は犬の体の半分以上を占め、生きていくために欠くことのできないもの。健康であれば飲み過ぎを心配する必要はないので、いつでも新鮮な水が飲めるように用意しておいてください。

ドッグフードの種類

世の中にはさまざまなドッグフードが市販されています。どのようなものがあるのか、簡単にまとめておきます。

【総合栄養食】

毎日の主食として与えるフード。ライフステージに合った栄養素をバランスよく配合し、新鮮な水と一緒に与えるだけで健康維持ができるように考えられています。ペットフード公正取引協議会が栄養成分の基準を満たしていれば「総合栄養食」と表示。

【間食】

ジャーキーやガムのようなおやつやスナック。こればかり与えては栄養バランスが崩れ、与えすぎはカロリーオーバーで肥満の原因になるので注意。

【その他】

「一般食（おかずタイプ）」「一般食（総合栄養食と一緒に与えてください）」「カロリー補給食」「副食」などの表示があり、栄養の調整やカロリー補給、嗜好増進などを目的としたフードもあります。

ドッグフードのタイプと特徴

ドッグフードは、フードの中の水分含有量によって、いくつかのタイプに分けられています。

【ドライフード】

水分含有量が10%以下で、カリカリになった固形状のフード。経済的で、保存性が高い。十分な水と一緒に与えるようにします。

【半生フード】

水分含有量が25~35%程度のフード。風味や嗜好性が高く、やわらかくて食べやすいので、子犬や高齢犬にも向いています。

【ウェットフード】

水分が75%以上含まれているフード。缶詰やアルミトレイ、レトルトタイプなどに多く、牛肉、鶏肉、魚などの素材の味をそのまま生かすことができます。開封後は早めにご与えください。

愛犬の手作りごはんにチャレンジするなら

体重が4~5kgなら、1日に必要カロリーは300kcal。手作りの場合の栄養バランスは、カロリー配分をタンパク質30~40%、炭水化物40~50%、脂肪10~30%を基準に。フレッシュな野菜は、ビタミンやミネラルが豊富なだけでなく、抗酸化力&免疫力をアップしてくれるファイトケミカル（植物栄養素/リコピン、カロテン、アントシアニンなど）も含まれているので、たっぷり摂るのがオススメです。



「住まいのレシピ Vol.2」では、愛犬の手作りごはんのページがスタート！



「愛犬家住宅」づくりのご相談先